周南の島「大津島」コミュニティ紙

潮流

2016 年 9 月号

No.251

大津島データ
人口 286 人 男 117 人 女 169 人
高齢化率 78.0%
(平成28 年 7 月 31 日現在)

題字：六郎万淳一さん　　イラスト：古城美保子さん

特集

頼れる存在 島の消防団

大津島には様々な団体があり、それぞれの役割を担い、島の生活や将来を守っています。

今回は、その中のひとつ、第4方面隊中央第15分団いわゆる「消防団」について、分団長の古城隆夫さんにお聞きました。

ご存知のとおり「たかおさん」は漁業の合間を縫って、様々な団体で中心的に活動をされておられます。

操法大会での入場行進

▼語り手
第15分団長
古城隆夫さん

▼聞き手　神杉

■質問／消防団の主な役割を教えてください。

■隆夫さん
急患の搬送や火災の時の消防活動などですが、消火については、最近はわずかです。

一方、台風等の災害の対応は年々増えています。見回りや、崩れた土砂の仮撤去などは増えました。

■質問／島の消防団の歴史を教えてください。

■隆夫さん
詳しい歴史はわかりませんが、私が約35年前に消防団に入った頃は団員も多く、大津と馬島にそれぞれ分団（消防団）がありました。少し前に合併して今の第15分団になっています。

また、最近まで火災ゼロの記録が続いていましたが、ちょっとしたボヤで途絶えてしまいました。ケガ人等もなく大事には至らず、ほっとしました。

しかし、ご高齢の方も多くなっていますので、これまで以上に気を付ける必要がありますね。

■質問／最後に、今後の島の安心・安全について考えておられることを教えてください。

■隆夫さん
近年の異常気象の影響もあり、全国各地で大きな災害が多発しています。同じように大津島でも起こるかもしれません。その時には、現役の消防団だけでなく、OBの皆さんの知識や経験が非常に頼りになります。とはいえ、若い方の体力も不可欠ですので、若い団員に大きな期待をしています。

最期に、

もっとも大切なことは、まずは自分の命を守る行動をすることです。

そこからが、私たち消防団の出番です。

操法大会にて
競技中の消防団

随筆

大津島での思い出

文＝三崎英和
（回天記念館）

先々月、大橋巨泉さんが亡くなられましたが、巨泉さんと言えば深夜のTV番組が思い出されます。中・高学生だった私には、なかなか視聴できない番組でしたが、金曜日の放送内容は、サブカルチャーやレジャー情報が中心であったため、家族の目を気にしないで見ていました。

中でも楽しみにしていたのが釣り情報。このような番組があったせいか、当時、私を含め多くの同級生が釣りを趣味にしていました。

大津島にも幾度も来ました。基地跡、小学校前の突堤、旧馬島港、洲島が見える海岸、本浦港といろんな場所で釣りましたが、残念ながら華々しい成果をあげた記憶はありません。

そうした場所に行くと、当時のことを思い出してしまうことがあります。

ようこそ大津島へ

県立田布施農工高等学校 吹奏楽部の皆さん

7月24日～26日（2泊3日）、24 人が大会直前の合宿のために来島され、貴重な練習時間を割いて、島の皆さんのためにミニコンサートを開催していただきました。

当日は座っているだけで汗が流れるほどの猛暑でしたが、島出身の松本かおりさん（馬島）をはじめとする学生たちの爽やかな演奏に、心地よく聞き入りました。

そして、この日のために有志で手作りしたお守りを演奏のお礼に、ひとり一人手渡しました。

お守り袋には島特産の御影石（硬い石）を入れ、大会に向けて“固い意志”で練習に臨んで欲しいと想いを込めました。

生徒の皆さんは、大会でベストを尽くすことができたそうです。そして今でもこのお守りを大切にしていただいているとお聞きしています。

ミニコンサートの様子（7 月 25 日）

島の御影石が入った手作りのお守り

a notebook ヤマトリ雑記帳

文＝嶋末由紀

ざっきちょう【雑記帳】秩序だてずいろいろなことを書きつけておく帳面。英 a notebook

島に通うようになって
知ったコト
遊びに来ていた時には
知らなかったコト

平家踊り もそのひとつです

ＴＶ撮影クルーがやってきた
真夏のある日の風景

行事等報告

７月と８月の島のできごと（一部）を写真で振り返ってみました。

7/7-8　学びの旅（民泊）
宇部市立万倉小・吉部小

7/3　刈尾ｸﾘｰﾝｱｯﾌﾟ作戦
刈尾自治会、海の団体ほか

7/12　老人大学
市社会福祉協議会、老人会

自治関係功労者　県知事表彰
安達　壽富　さん

7/14　学校草刈作業
コミュニティ、市役所新採用職員

8/14　平家踊りDVD撮影
平家踊り保存会、ｼﾃｨｰｹｰﾌﾞﾙ

お知らせ

【島の行事予定】

９月１０日	（土）	刈尾海岸清掃
９月１５日	（木）	敬老の日記念行事
９月２５日	（日）	学校グランド草刈り
９月２６日	（月）	老人クラブ須金交流会
１０月　２日	（日）	防災運動会
１０月１４日	（金）	長持ち唄撮影
１０月１８日	（火）	ﾎﾟﾃﾄﾏﾗｿﾝ実行委員会
１１月　６日	（日）	文化祭

【次回発行予定日】
平成２８年１１月１日　第２５２号

移動図書館　【やまびこ号Ｊｒ.】　９月２１日（水）
馬島巡航待合所１１：３０～１２：００
刈尾巡航待合所１２：２０～１２：５０

【編集後記】

カラダの脂肪も溶かしてしまいそうな日射しも、なんとなくやわらいできたようですが、次は台風シーズンに突入…なかなか身体が休まりません…

今回から大津島ふれあいセンターの嶋末さんが編集委員として参加。「島のこれがステキ」をテーマにし、彼女が撮影した写真と短いことばで綴るコーナーを受け持っていただきました。大津島で働きはじめた女性が感じる“好き”をアーティスティックにお伝えしていきます。

編集委員一同（文責：神杉朋史）

大津島の最新情報は、オフィシャルFace bookページ『のほほん大津島』で紹介しています。
https://www.facebook.com/nohohon.oodushima/

知っちょるかね

おきだの話

文＝松本千恵子

暑い暑い夏を乗り越えて「やれやれわしらあは、ようあの暑い夏を生きちょったでえのう」とは、秋のバアサマ達の立ち話。昔のようにおきだに涼みに出る位では追いつかんこのところの夏。一昔前なら夕飯がすんで一息付くとき、おきだに出てウチワで蚊を追いながら、同じように涼みに出た近所の人達と、畑の話や子供の事季節の話などとりとめのない話をえいっときせるちゅうと、ちょうどええ具合に身体も冷えて、１日のストレスも解消できて、すっきりして蚊帳の中に潜り込む。ちゅうように、暑さにもまだ優しさがあったよね。日なかの地獄の責め苦のような田畑の草取りやら、毎日の水汲み、肥かたぎ、１日が終わって「やれ暑かったでよう」と、労働から解放されておきだで休む時は、島の人にとってはほんのいっとき、心も解放できよった気がせるね。おきだだけじゃあのうて、波戸にゴザをひいて、枕まで持って出てしばらく横になってから帰る人もおった。おきだといい、波戸といい、きつい労働の毎日にささやかな癒しの時間。あの頃の人達はそれを上手に大切に使いよったよね。

おきだ、島ではざがだになるから、本当は「おきざ」。置き座なのか、沖座なのかわからんけど、今はなき島の夏の風物詩。

若潮の会通信

文＝屋野郁夫
（若潮の会）

激暑８月15日。前夜の盆踊りで準備体操は十分。復活アイランドカップ白熱開催される。

久しぶりの顔々に近況報告、お腹の張りと尿酸値が話題となる。

年代別４チーム編成、プレーは若かりし頃を…。

イメージは10代に戻っているが足が動かない。優勝チームも４位チームも互角の戦い。勝敗は先輩を敬う形となる。

メダルラッシュのオリンピック、アイランドカップも熱い。来年の参加を約束し乾杯。

ひろしのつぶやき

文＝屋野廣志

限界集落の現状では盆の行事、祭の進行も全て壊滅となる。此の様な行事は三世代が揃って成り立ち祖先の伝承風習も踊と共に無となった。

盆には此の様な風習が多くあった。変わらぬ動作と調子で踊も夜を徹して先祖より受継いだ現在の安らぎと結束の願ひ。その行事の伝承の期でもある。

地区の諸行事は全て若い衆の役と古くから定められ、その行事の役職の長となる者は年長者先輩の推挙により選ばれ入会や退会も盆を中心に行われた。14、15才頃が入会の年令であるが当人の希望で入会する事が出来ず、必ず仲介の世話人を立て、酒５合と紙に「肴代３銭９厘」と書き置き入会が許されたと古老から聞いた。秩序をみだす者にはきびしい「ノケモノ」と云ふ制裁があった。

又、盆には若い男女の交際の場造りの様も成して居た。盆の16日は男の若い衆の取り来た山海の幸を娘若衆が料理し、中老世代を招待し盛大な「おもてなし」を成し、中老は日常の若い衆の努力の報酬として金一封を贈り、盆の行事費の精算や運営費に当てた様だ。

又、大津島には「ほうばい」と云ふ若い衆仲間以上に親密な同年代か２、３才前後の数名で契り合い、身の上の大事な事を生涯を通して助け合ふ風習も此の盆の時期に行なわれたと聞く。

※原文のまま掲載しています。

◆発行　第２５１号ー平成２８年９月１日ー大津島コミュニティ推進協議会　◆編集　潮流編集委員会　◆事務局　大津島支所
〒７４５－００５７　周南市大字大津島１３６１－４　電話０８３４（８５）２００１　ファックス０８３４（８５）２７３２